

# 神戸

## ずきんで高める防災意識

阪神大震災で本社ビルが全壊した神戸市長田区の学校靴メーカー「ラッキーベール」が、小学生向けの防災ずきんを売り出した。震災の記憶がない児童が増え、風化しがちな地元の防災意識を高めたい、と1年がかりで製作した。同社は、自然災害の被災地や途上国に対する靴の寄付を続けており、防災グッズを普及させることで、「被災先進地」からのメッセージを届けようという意気込み。

1961年に設立された同社は、着脱しやすい「前三角ゴムシューズ」などの学校用履きや運動靴を全国の小中学校に販売。年間約120万足を納入し、全国シェア1割強を誇る。

震災では、鉄筋4階建ての本社ビルが全壊し、火の手が寸前に迫った。従業員らは、がれきの中から注文書や顧客情報が入ったパソコンなどを取り出し、同市西区の倉庫を間借りしてしのいだ。「もしビルが燃えていたら、建物だけでなく、会社自体もつぶれていた」と、有吉英二社長(57)は振り返る。

震災を機に、すべての生産拠点を中国に移した。少子高齢化が進み、受注額が頭打ちになる中、3年前から高齢者向けの健康シューズを開発し、年2万足を売る。

寄付事業の歴史も長い。91年には長崎・雲仙普賢岳の噴火で被災した

### 震災で本社全壊 長田の学校靴メーカー製作

#### 「企業の社会貢献を」



発売された防災ずきん。震災の街からの発信を込めて、名札の隅に「KOBЕ」の文字を入れた=神戸市長田区で

学校に5千足、震災時は神戸市内の小中学校に1万足を贈った。新潟県中越地震の被災地やモンゴル、アフリカにも寄贈している。

防災ずきんの開発を始めたのは、学校に出入りする中で、「東京でよく見かける防災ずきんを神戸では見ない」と気づいたのがきっかけ。震災直後は広まりつつあったずきんがその後、使われなくなった実態を知り、「防災グッズを各地に行き渡らせれば、防災意識の高まりにもつながる」と話す。

地元のお米を食べよう  
ご飯おかわり健康家族、身近なお米で環境保全。

**J A 兵庫六甲**

http://www.jancko.jp

3ちせんうす

神戸総局  
神戸市中央区浪花町60  
☎ 078(331)4144  
FAX 078(331)4149  
明石支局078(912)0346  
三田支局079(562)5361  
篠山支局079(552)7180  
阪神支局  
西宮市産所町14-11  
☎ 0798(33)5151  
FAX 0798(35)2070  
購読のお申し込みは  
0120-33-0843  
(7:00~21:00)  
購読・配達のご用は  
神戸 (321)1870  
(10:00~17:00)  
明石 078(918)6808  
緑ヶ丘 0794(84)0897

皮革の魅力 芸術に  
東灘の山中さん個展

皮革に魅せられ活動に打ち込んだ神戸市東灘区在住作家、山中二(61)の個展が4(日)で始まった。山中さんは、山中山さんは、合って30年余。現で草の魅つかれた。厚さ3ミリの皮革を染で好きな色に染も張り合わせた

契約社員やパートなど非正規雇用の従業員を対象にした労働組合「アルバイト派遣・パート関西労働組合」(本部・大阪市北区)が4日、神戸市中央区楠町2丁目にて神戸事務所を開き、電話相談を始めた。

#### 労組の派遣やパート

同労組は昨年5月に結成。大阪と京都に事務所を構え、今年9月末までに電

庫県内からの相談だったことから、神戸に事務所を設けることにした。

相談内容は賃金や時間外手当の未払いや予告通告なしの解雇、社会保険の未加多分の支えになりたい」と話す。

電話相談は5日午前10時午後7時と6日午前10時午後5時で、電話番号は078・360・045

#### 新事務所開設

あすまで電話相談

30代のフリーターは自己評価が低く、不当な扱いを受けても、仕事ができないからしようがない、などと自分を責めている。一人でも多くの支えになりたい」と話す。

電話相談は5日午前10時午後7時と6日午前10時午後5時で、電話番号は078・360・045

強盗致死2被告 懲役15年の判決

猪名川町の事件で地裁無職男性(当時59)の自宅に押し入って男性を縛って暴行し、キャッシュカードなどを奪って死なせるなど、強盗や窃盗を繰り返したなどとして、

判決では、両被告を遂も含めて10件窃盗や窃盗などを